

# 教育のページ

## プログラミング学ぶ

### 田工高で講習会 地元中学生が参加

田辺市あけぼのの田辺工業高校はこのほど、県内16歳以下を対象にした「U-16プログラミングコンテスト和歌山大会」の事前講習会を開いた。地元の中学生在が参加し、プログラミングの基礎を学んだ。

部の生徒ら5人もサポート役として参加した。

竹居教諭は「エマズ動く」「ブロックを置く」といった行動命令が16種類あることなどを解説。生徒はパソコンを使って実際に命令を出す練習をし、コンテストに出場するための基礎的なプログラミングを学んだ。

11月に同校が開催するコンテストでは、各自がプログラムしたマス目状のゲームで1対1で対戦し、勝敗を決める。NPO「ITジュニア育成交流協会」(東京都)などの協力で実施し、優勝者にはITの分野で優れた技術を持つ若者を表彰する「BCN IT治教諭(53)から説明を受け、ジュニア賞」が贈られる。来た。同校コンピュータ応用

上富田中1年の谷本和香奈さん(13)は大人になった時に役立つと思って参加した。プログラミングとはこういうものなのか、イメージが違った。コンテストでは優勝した



高校生のサポート役のボランティアの基礎を学ぶ中学生(田辺市あけぼの)

い」と話し、東陽中2年の栗本啓田君(13)は「ゲームが好きでプログラミングに興味がある。内容は複雑だったが、やってみれば「1」を押さないと動かない」とつぶやいた。頭張は理解できた。もっといろいろなことを知りたい」と声を送った。

弾ませた。サポート役の田辺工業高2年、小山拓海君(16)は「中」学生で興味を持ち、やってみようと思うのがすごい。頑張ってほしい」とエールを送った。